

平成27年度 決算のご報告

保険料収入の増加、納付金の負担減少で、
黒字決算となりました。

健康保険組合連合会発表の平成28年度「予算早期集計結果」によりますと、全国の健保組合の経常収支差引額は1,384億円の赤字で、前年比45億円改善したものの、依然として全体の6割を超える901組合が赤字となりました。

赤字額の改善要因はおもに適用拡大による被保険者数の増加と、保険料率の引き上げによるもので、保険料率を引き上げた組合は約15.6%となり、また、協会けんぽの平均保険料率100%以上の組合は前年度を上回り、全体の約21.7%となりました。

そのため、収入面では保険料収入が増加となりましたが、一方、支出面では法定給付費が増加し、さらに団塊世代がすべて前期高齢者となる超高齢社会において、高齢者医療制度への支援金・納付金の保険料収入に対する割合は約42.8%になるなど、依然増加傾向にあり、高齢者医療のための拠出金負担が組合財政を圧迫している状況に変わりありません。

健保組合としましては、現役世代に過度に依存する現行の高齢者医療制度を構造的に見直すよう、引き続き国に求めてまいります。

こうした状況の中、当健保組合の平成27年度決算がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

基礎数値

(平成28年3月現在)

被保険者数	男	2,020人
	女	785人
	合計	2,805人
平均標準報酬月額	436,727円	
総標準賞与額 (年間合計)	4,449,273千円	
被扶養者数	3,155人	

一般勘定（健康保険）

収入 賞与額の増加により増収

収入面では、おもに賞与額（年間合計）が増加した結果、保険料収入が前年度より7,767万円の増収となりました。また、繰越金4,000万円、補助金等追加入収6,550万円などもあり、収入総額は18億5,070万円となりました。

支出 前年度に続き納付金が大幅に減少

医療費として支払われる保険給付費は、ほぼ前年度並みにとどまりました。

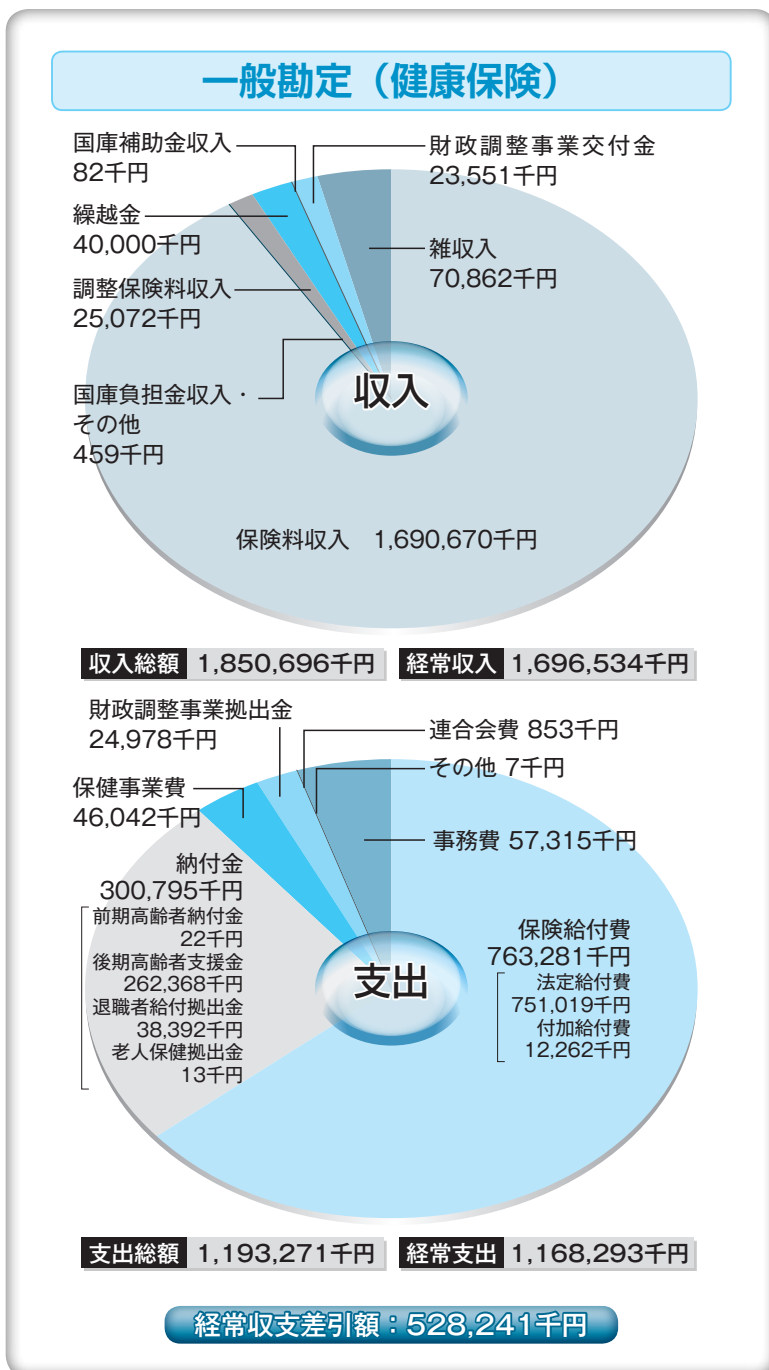
また、組合財政を圧迫する主要因ともいえる納付金については、前年度から続く前期高齢者納付金の精算のもどりにより、前年比2億6,804万円の大幅減となり、保険料収入に占める割合は前年度の約半分（17.8%）となりました。保健事業につきましては、27年度もデータヘルス計画初年度にあたり計画に沿って実施しました。

結果、平成27年度の収支差引額は6億5,743万円の黒字に、経常収支差引額においても5億2,824万円の黒字で終えることができました。

収入		単位：千円
保険料収入	1,690,670	
国庫負担金収入・その他	459	
調整保険料収入	25,072	
繰越金	40,000	
国庫補助金収入	82	
財政調整事業交付金	23,551	
雑収入	70,862	
収入総額	1,850,696	
経常収入	1,696,534	

支出		単位：千円
事務費	57,315	
保険給付費	763,281	
法定給付費	751,019	
付加給付費	12,262	
納付金	300,795	
前期高齢者納付金	22	
後期高齢者支援金	262,368	
退職者給付拠出金	38,392	
老人保健拠出金	13	
保健事業費	46,042	
財政調整事業拠出金	24,978	
連合会費	853	
その他	7	
支出総額	1,193,271	
経常支出	1,168,293	

単位：千円	
一般勘定収支差引額	657,425
経常収支差引額	528,241



介護勘定（介護保険）

各市区町村が保険者として運営している介護保険の保険料徴収は、健康保険組合が代行して行っています。組合に加入する40歳以上64歳までの方々に対する介護保険料として徴収し、各市町村へ納めています。介護保険の第2号被保険者数は、2,550人でした（被扶養者を含む）。

平成27年度は介護保険収入が1億8,414万円、介護保険納付金が1億4,376万円となりました。繰越金より1,000万円の繰り入れとなりました。

収入		単位：千円
介護保険収入	184,141	
繰越金	10,000	
雑収入	8	
合計	194,149	

支出		単位：千円
介護納付金	143,762	
合計	143,762	
介護収支差引額	50,387	